令和４年度　生活科実践・研究計画

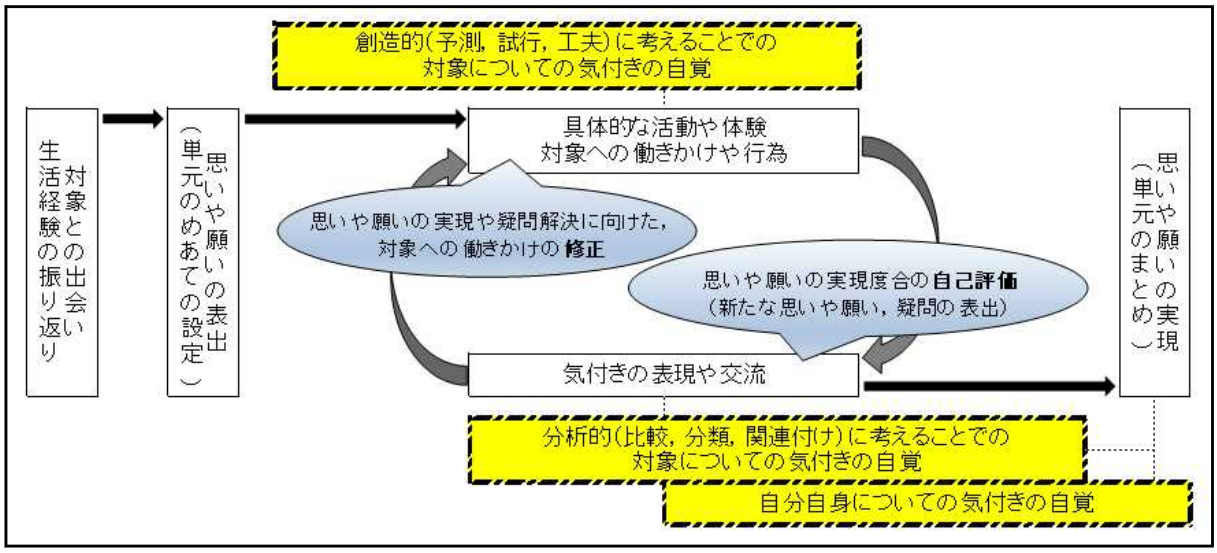
部　員	○稲垣　勇介，保坂　智子

研究テーマ
気付きの質を高めながら，自覚した気付きを生かして対象に働きかける子どもを育む学び

１　研究テーマについて

生活科では，自分の思いや願いを実現させるために，身近な人々，社会及び自然に働きかけていく中で，一人一人の気付きが蓄積されていく。子どもは，その気付きを基に思いや願いの実現に向かっていき，それが実現する過程において，自分自身の成長をも実感していく。つまり，気付きの自覚や自分自身への気付きなどの気付きの質の高まりが，子どもの思いや願いの実現には必要である。そう考えると，生活科でねらいたいのは子どもの気付きの質を高めることであり，本校で育みたい力は，現段階の自分ができていることや分かっていることを自覚し，思いや願いの実現度合を自己評価する力，行う働きかけと得られる反応や結果の関係を自覚しながら行う，対象への働きかけを修正する力である。そこで，対象に働きかける中で，気付きの質を高めながら，思いや願いの実現に向かっていく姿を期待し，「気付きの質を高めながら，自覚した気付きを生かして対象に働きかける子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

生活科で目指す自律した子どもの姿
・分析的（比較，分類，関連付け）に考えることで，できていることや分かっていることを自覚し，思いや願いの実現度合の自己評価をしている姿
・自己評価をもとに，創造的（予測，試行，工夫）に考えることで，行う働きかけと得られる反応や結果の関係を自覚しながら，対象への働きかけを修正している姿



図：生活科　自律した学習者を育てる学習のプロセス

２　研究の重点＜○は具体的な取組の例＞

思いや願いの実現度合の自己評価につながる，新たな気付きの自覚を支えるものさしを共有するための手立て
○五感を使った気付きや関わった対象についての気付きを分類し，思いや願いの実現度合を判断する視点を共有する場の設定
○働きかけの予測や試行，気付きの比較や関連付けなどをするよさを振り返り，思いや願いの実現度合を判断する方法を共有・更新する場の設定
○擬人化による対象へのなりきりや，教師や友達からのフィードバックなどの，自分を客観視して気付きを自覚できる活動の設定